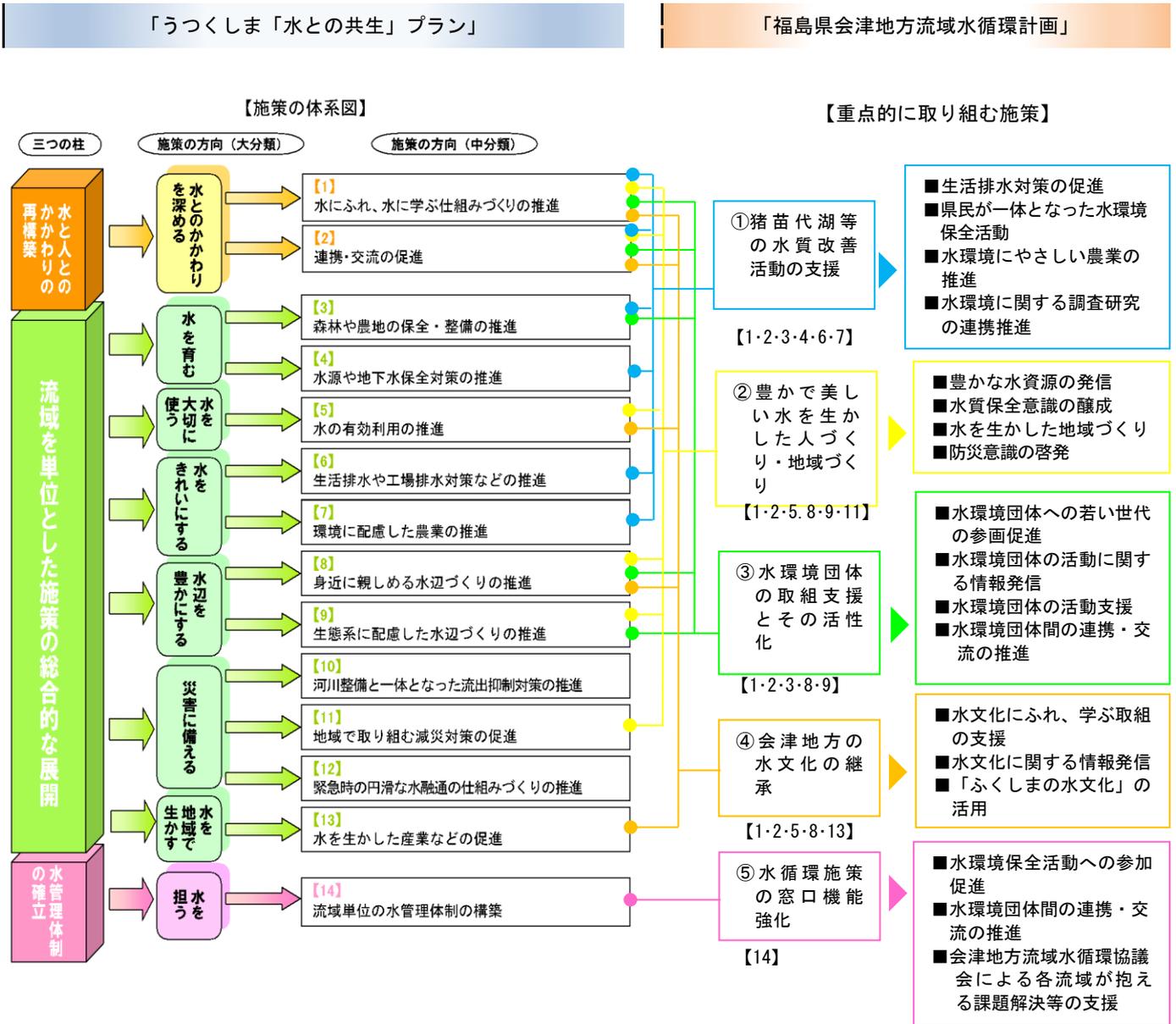


第4章 福島県会津地方流域水循環計画の重点施策

4 福島県会津地方流域水循環計画で取り組む施策の体系

共生プランの施策を軸として、「福島県会津地方流域水循環計画」で重点的に取り組む施策を体系化します。



「うつくしま「水との共生」プラン」と「会津地方流域水循環計画」における施策の関係

主な課題と今後の方向性

猪苗代湖では、近年、湖水の中性化に伴い、猪苗代湖特有の自然浄化機能が低下し COD が上昇するとともに、高水温期に大腸菌群数が水質環境基準を達成していない状況にあります。また、裏磐梯湖沼群では、COD が漸増傾向にあり、秋元湖が水質環境基準を達成していない状況です。猪苗代湖等の水質改善を図るため、地域住民や水環境団体等が行っている環境保全活動を促進、支援します。

課題

方向性

近年、猪苗代湖の自然の浄化機能の低下が懸念される状況にあり、流域における生活排水対策が急務である。

地域住民や事業者に対する生活排水対策を促進します。

猪苗代湖では、ヒシやヨシなどの水生植物が増加しており、水質悪化の原因の一つになっている。

ボランティアによる水生植物の刈取りや回収などの水環境保全活動を促進します。

農業で使用する化学肥料の一部が、雨や散水により農地から流出し、猪苗代湖の水系に流出する恐れがある。

水環境にやさしい農業を推進します。

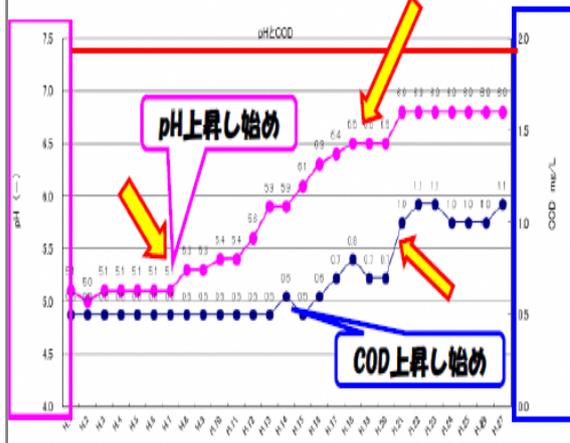
猪苗代湖の水質改善活動の効果を向上させるため、水質悪化の原因や水環境保全の効果等の調査研究を充実させる必要がある。

県や大学、NPO、研究機関等で行われている水環境に関する調査研究の連携を推進します。

「猪苗代湖等における大腸菌群数最大値と pH、COD の推移」

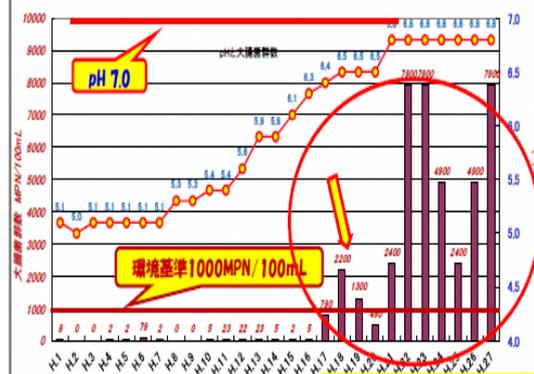
〔NPO法人輝く猪苗代湖をつくる県民会議提供資料「福島県環境等測定調査結果」より〕

平成7年頃から湖心のpHが上昇し始め、平成12年頃から湖心のCODが上昇し始める。=水質汚濁の顕在化！



水質日本一復活を阻む：大腸菌群数⇒環境基準超過

平成18年頃から大腸菌群数が環境基準を超過 ⇒ 生環境変化
大腸菌群の生残性 ⇒ pH 中性、高水温時、COD-有機物上昇

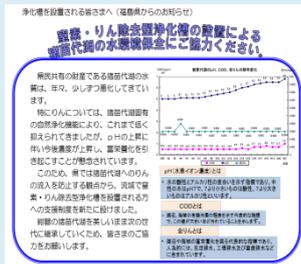


具体的な取組

猪苗代湖等の水質改善を図るため、生活排水対策や水環境にやさしい農業を推進するとともに、県民が一体となった環境保全活動の輪を広げます。

生活排水対策の促進

地域住民及び事業者に対する啓発を通じて、下水道や農業集落排水施設への接続や、窒素・りん除去型浄化槽への転換を促進します。



窒素・りん除去型浄化槽設置促進チラシ

県民が一体となった水環境保全活動

ボランティア参加者の情報共有や協力体制の構築等を進め、県民が一体となった水環境保全活動の大規模な展開を図ります。



県民ボランティアによるヨシの刈取り

水環境にやさしい農業の推進

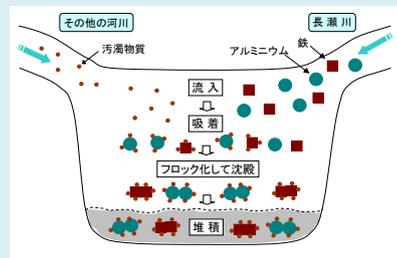
化学肥料・農薬の低減に取り組むエコファーマー及び特別栽培農作物の生産者の育成や、稲作での施肥量を低減する側条施肥田植機等の導入を推進します。



側条施肥田植機（猪苗代町）

水環境に関する調査研究の連携推進

県環境創造センターや大学、NPO、研究機関等の各機関が実施する猪苗代の水環境に関する調査研究の連携を推進します。



猪苗代湖水質浄化のイメージ

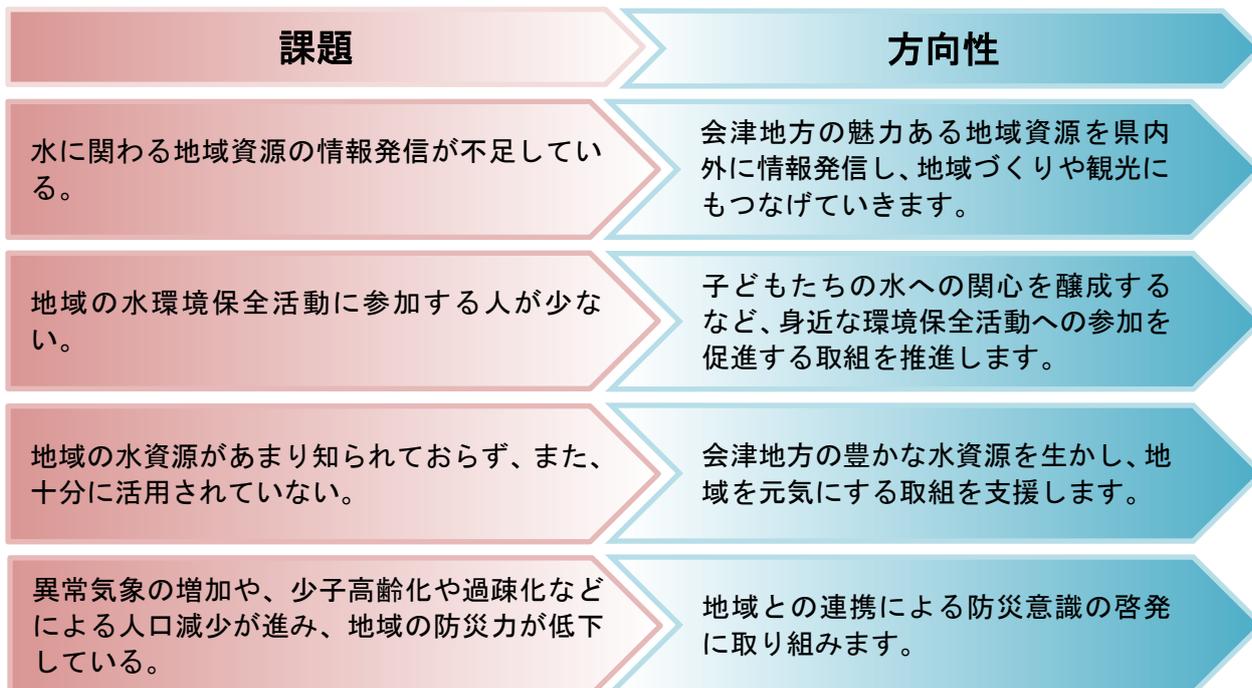
「猪苗代湖等の水質改善活動の支援」に関わる取組と実施主体の関係

重点的に取り組む施策		実施主体						
		産	学	民		行政		
		事業者	研究機関・教育	市民団体	住民	市町村	国	県
①猪苗代湖等の水質改善活動の支援	生活排水対策の促進	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎
	県民が一体となった水環境保全活動	◎	◎	◎	◎	○	○	◎
	水環境にやさしい農業の推進	◎	◎	◎	◎	○	○	◎
	水環境に関する調査研究の連携推進	◎	◎	◎	◎	○	○	◎

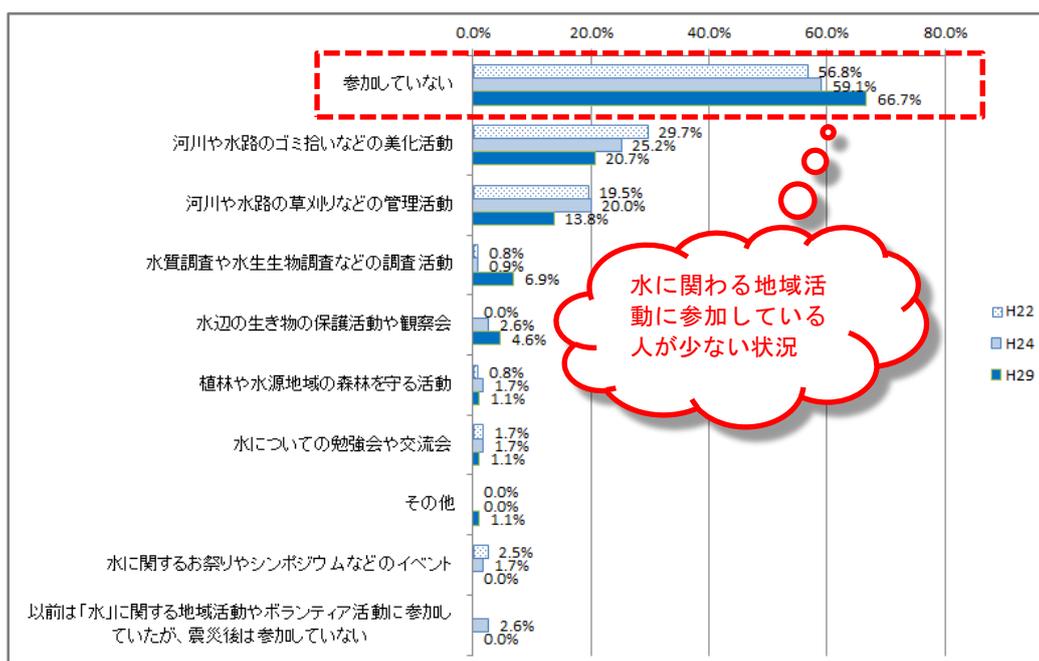
※◎は中心となって取り組む主体、○は関係して取り組む主体

主な課題と今後の方向性

会津地方の流域は、豊かで美しい水により育まれた名水や地酒、温泉、景勝地などの地域資源に恵まれています。地域の水環境保全活動への参加が進まない状況にあります。地域の水資源に関する意識や関心を高め、会津地方の美しい水環境を守っていくため、身近な水環境保全活動への参加を促進するとともに、これらの水資源を流域の魅力として活用し、地域を元気にする取組を支援します。



「水に関わる活動への参加状況」（会津地方）〔平成 29 年度県政世論調査（福島県）〕



具体的な取組

子どもたちへの環境教育を充実させるとともに、地域住民や水環境団体の連携や交流を促進するなど、健全な水循環を支える人づくり、地域づくりを支援します。

豊かな水資源の発信

会津地方の名水や地酒、温泉など、豊かな地域資源を情報発信し、地域づくりや観光などにつなげます。



金山町の炭酸水



会津地方の地酒を含む県内の日本酒

水質保全意識の醸成

水生生物による水質調査を行う「せせらぎスクール」や、「水の作文コンクール」などを通じて、子どもたちの水に対する意識を高めていきます。



せせらぎスクール

水を生かした地域づくり

各流域の豊かな水資源を活用し、地域を元気にする取組を支援します。



会津地方の水文化を学ぶツアー

防災意識の啓発

関係機関が連携した減災対策に向けた取組や、地域住民の防災意識の向上の取組などを推進します。



豪雨から子どもの命を守る出前講座

「豊かで美しい水を生かした人づくり・地域づくり」に関わる取組と実施主体の関係

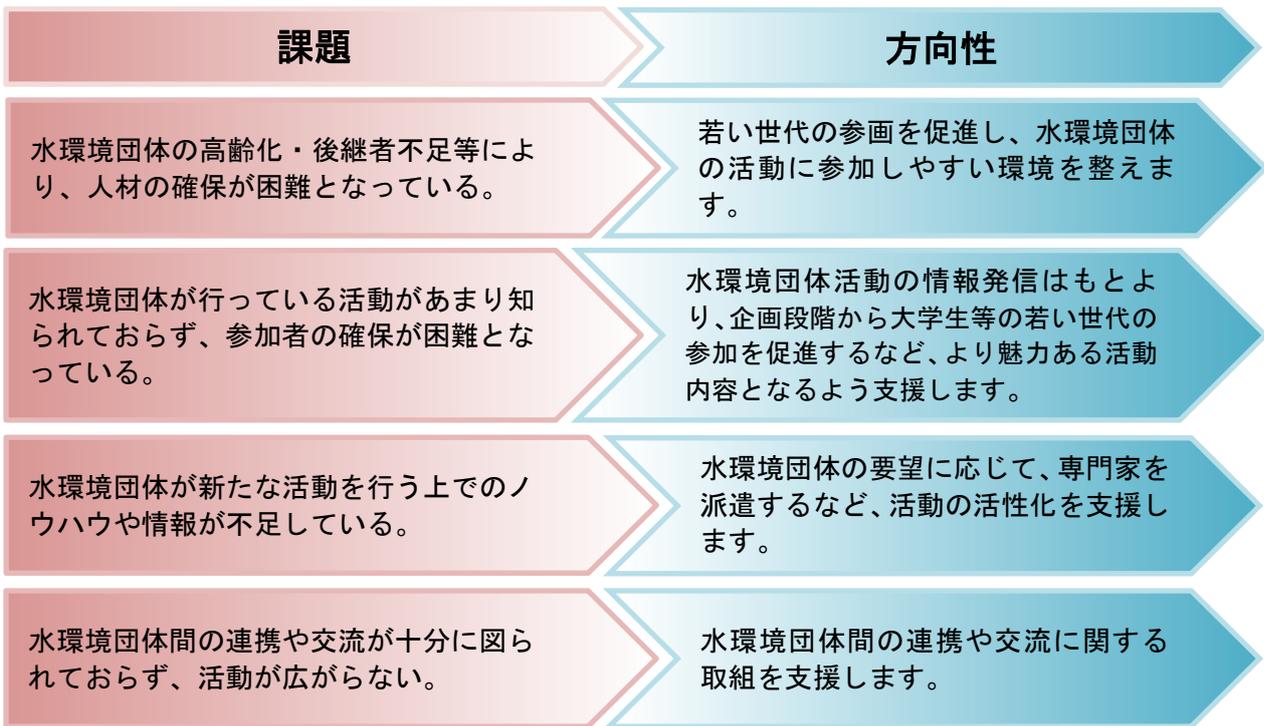
重点的に取り組む施策	実施主体						
	産	学	民		行政		
	事業者	研究機関・教育	市民団体	住民	市町村	国	県
② 豊かで美しい水を生かした人づくり・地域づくり	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎
豊かな水資源の発信	◎	◎	◎	◎	○	○	◎
水質保全意識の醸成	◎	◎	◎	◎	○	○	◎
水を生かした地域づくり	◎	○	◎	◎	◎	○	◎
防災意識の啓発	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎

※◎は中心となって取り組む主体、○は関係して取り組む主体

水環境団体の取組支援とその活性化 ～自然と人々の営みを支える水との共生～

主な課題と今後の方向性

会津地方の各流域は豊かな水環境に恵まれ、清らかな水が自然を育み、人々の生活を支えてきました。この豊かな水環境を守るため、水環境団体による様々な活動が行われていますが、構成員の高齢化や後継者不足のほか、水環境団体間の連携や交流が十分に図られず活動が広がらないなどの課題を抱えています。このため、水環境団体の活動を広く知ってもらい、団体間の連携や交流を促進させることにより、人材の確保や活動の活性化につなげていきます。



「県内の水環境団体からの主な意見」〔県から水環境団体に対する聞き取り結果より〕

活動状況・意見等

福島市荒川資料館を無料で使用させてもらっている。一方、福島市が待ちつ持たれつとの関係にある。

国連事務所には、清掃活動への参加や河川に関する情報提供を希望する団体はいるので、あまり押し付けがましい感じで調整できるとは。取材では、荒川の水質日本一は、当協議会の清掃活動のおかげでなっていたことを伝えている。

川事務所から依頼されている。資金を... 少ない。人も限られている。例えはその枠を取り払い、... されない。

●高齢化・人材不足
●8名の女性会員で活動。震災後の放射性物質のアンケート調査など、要望が多く対応できなくなってきた。
●水とのふれあいの喪失
●川に入ることがない、虫にさわれないという子供がいる。なんとかしてあげたい。

●高齢化・人材不足
●体のメジャーも高齢化してきた。団体の運営に依るので担い手が...
●地域の祭りや正月行事が...
●団体間の連携不足
●鮎川は流域が県南・県中...
●活動資金の不足
●経費を自腹で賄う場面も多く、...
●取り組み内容、活動成果の情報発信
●活動成果がその都度出ないと、一度は来ても再度来ない。

生活に身近な水路が少なくなりました。

活動に関する情報不足

高齢化・人材不足

参加者の確保

団体間の連携不足

ネットワークは原発災害以降は活動が停滞していた。組織内各団体の連携はほぼ無い状況。...
●高齢化してきた。団体の活動はボランティア性を考えると、長期的に取り組める人...
●団体の活動がその都度出ないと、一...
●川で遊ぶことで、川を守る人になっ...
●川で遊ぶ事を禁止している。川で遊ぶ...
●少子化により、地域の祭りや正月行事が...
●各地域の伝統を流域で取り組む方法もあるのではないかと。

具体的な取組

水環境団体の人材確保や情報発信の支援を行うとともに、水環境団体間の連携・交流の取組を支援し、水環境団体の活動の活性化を図ります。

水環境団体への若い世代の参画促進

大学等と連携して若い世代の参画を促進するなど、水環境団体の活動に興味を持ってもらい、活動に参加しやすい環境を整えます。



福島県内大学水泳部水泳大会

水環境団体の活動に関する情報発信

福島県 HP や若者たちの情報発信ツールなども活用し、水環境団体の活動を紹介します。



若者の SNS 等の活用

水環境団体の活動支援

勉強会や講演会等に講師を派遣する「水との共生出前講座」などを活用し、水環境団体の活動を支援します。



水との共生出前講座

水環境団体間の連携・交流の推進

福島県水環境団体交流会の活動を支援するなど、水環境団体間の連携や交流の機会を充実させます。



阿賀川の団体連携活動

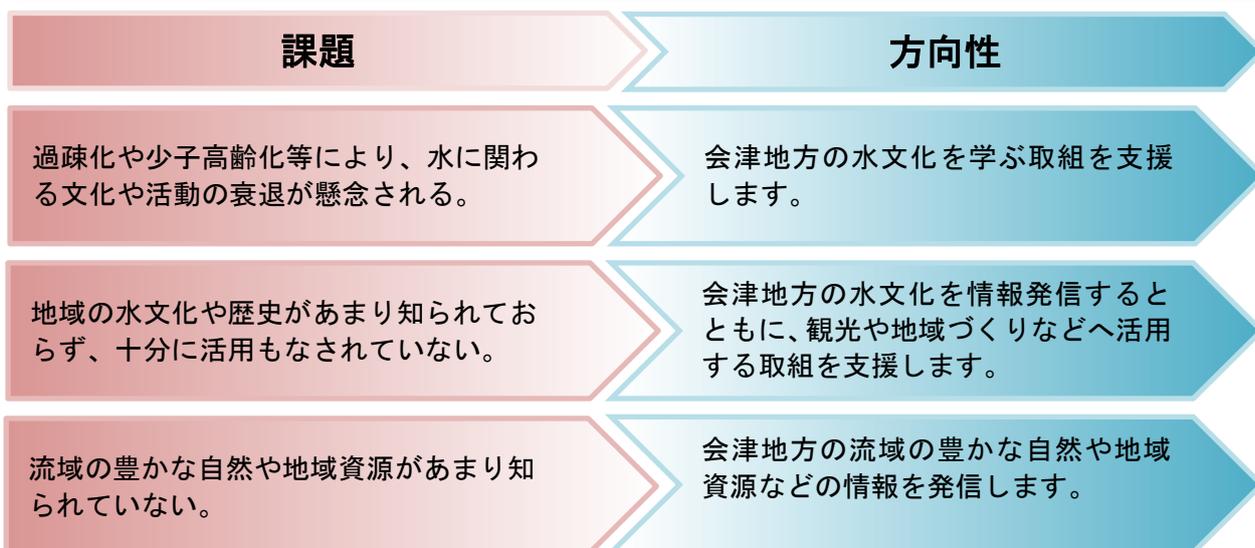
「水環境団体の取組支援とその活性化」に関わる取組と実施主体の関係

重点的に取り組む施策		実施主体						
		産	学	民		行政		
		事業者	研究・教育・機関	市民団体	住民	市町村	国	県
③水環境団体の取組支援とその活性化 ～自然と人々の営みを支える水との共生～	水環境団体への若い世代の参画促進	○	◎	◎	◎	○	○	◎
	水環境団体の活動に関する情報発信	○	○	◎	◎	○	○	◎
	水環境団体の活動支援	○	○	◎	◎	○	○	◎
	水環境団体間の連携・交流の推進	◎	○	◎	◎	○	○	◎

※◎は中心となって取り組む主体、○は関係して取り組む主体

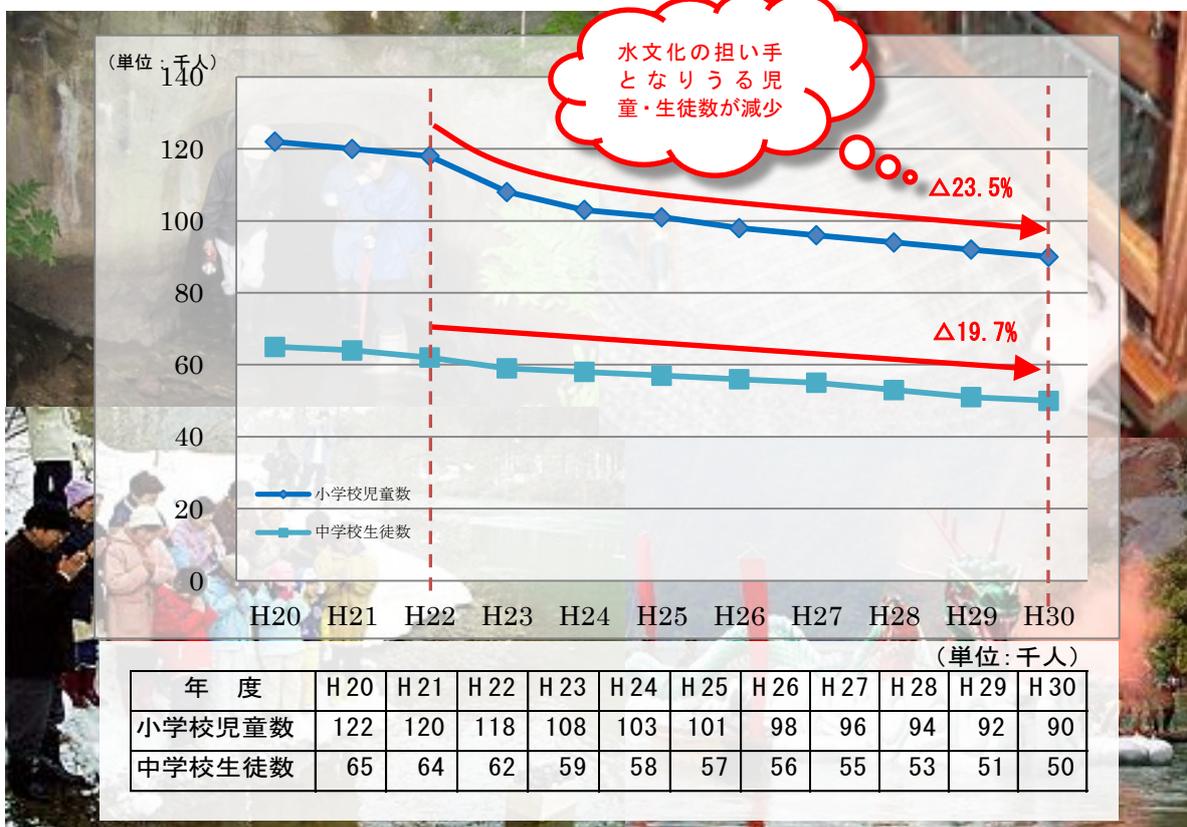
主な課題と今後の方向性

会津地方では、水に関わる祭事や伝統工芸などが各地に残されておりますが、これらの「水文化」は、中山間地域の過疎化や少子高齢化等による影響などにより、伝統文化の担い手が減少し、衰退が懸念されています。このため、地域の水文化を、流域の魅力として十分に活用しながら、将来に継承していく取組を支援します。



「県内の小学校児童数、中学校生徒数の推移」

〔福島県企画調整部統計課編「平成30年度学校基本調査結果速報」から作成〕



具体的な取組

水文化を学ぶ取組への支援や水文化に関する情報発信を行うとともに、観光や地域づくりなどへ活用する取組を支援します。

水文化にふれ、学ぶ取組の支援

学校や地域における水文化を学ぶ取組や、地域の水文化を学びながら行う水環境活動を支援します。



水について学ぶ子どもたち

水文化に関する情報発信

県ホームページや各種イベント等において、各地の水文化に関する情報を発信します。



伊佐須美神社の田植神事（会津美里町）

「ふくしまの水文化」の活用

平成22年度に選定した「ふくしまの水文化」について、観光や地域づくりなどへ活用する取組を支援します。

会津地方の“特に後世に伝えたいふくしまの水文化”一覧

テーマ	種類	水文化
生活の中の水文化	祭事・信仰等	高清水のひな流し（三島町）、伊佐須美神社の田植神事（会津美里町）、へびの御年始（会津美里町）
	伝説・伝承等	無行沼（無行帰沼）（喜多方市）、大蛇伝説（金山町）
	湧水・清水	空也清水（会津若松市）、強清水（会津若松市）、龍ヶ沢湧水（磐梯町）、磐梯神社宝の水（猪苗代町）、薬水（下郷町）、
	水揚・水車	代官清水（西会津町）、前沢集落の水場とバッテリー小屋（南会津町）
	その他	トチ餅（南会津町、金山町、三島町 他）
水に関わる産業	伝統工芸	からむし織り（昭和村）
	舟運	阿賀川の舟運（喜多方市）
	伝統漁法	伊南川・只見川の漁具・漁法（南会津町、只見町）
	利水施設	安積疏水関連施設（麓山の飛瀑、十六橋水門含む）（猪苗代町）、戸ノ口堰（会津若松市）、本木上堰（喜多方市）、土田堰（猪苗代町）、三貫堰（会津美里町）、円蔵堰（下郷町）
	産業施設	東京電力ホールディングス(株)猪苗代第二発電所（会津若松市）
生活関連施設	大内宿自然用水（下郷町）	

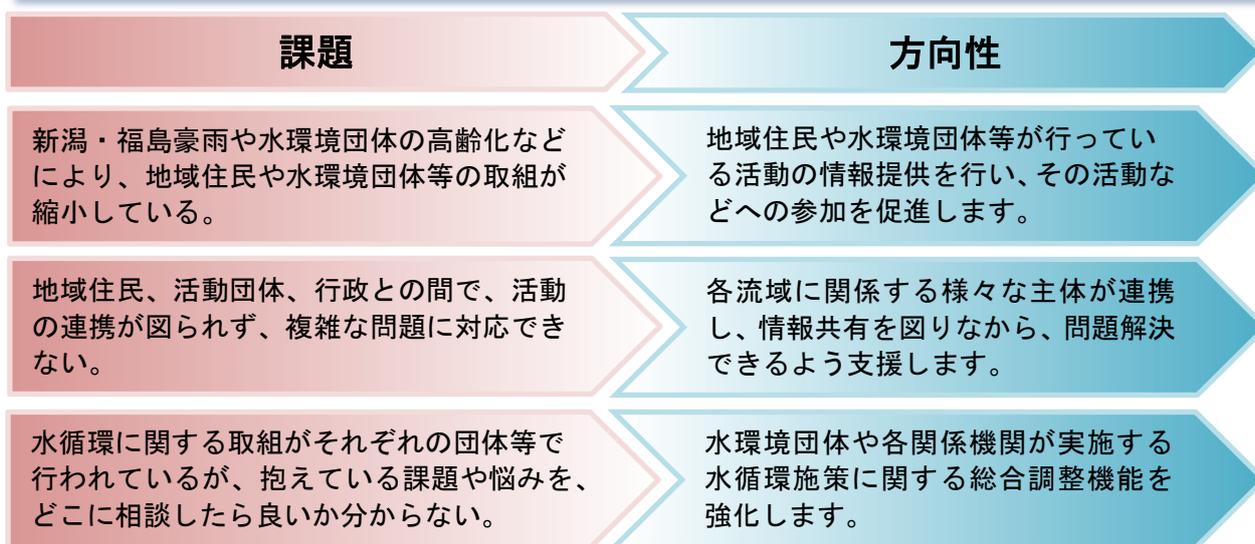
「会津地方の水文化の継承」に関わる取組と実施主体の関係

重点的に取り組む施策		実施主体						
		産	学	民		行政		
		事業者	研究・教育・機関	市民団体	住民	市町村	国	県
④会津地方の水文化の継承	水文化にふれ、学ぶ取組の支援	◎	◎	◎	◎	○	○	◎
	水文化に関する情報発信	◎	◎	◎	◎	○	○	◎
	「ふくしまの水文化」の活用	◎	○	◎	○	◎	○	◎

※◎は中心となって取り組む主体、○は関係して取り組む主体

主な課題と今後の方向性

会津地方の各流域が抱える水環境の問題は多様化しており、流域に関わる様々な主体が課題を共有し、連携しながら一緒に取り組んで行くことが求められています。そのため、関係団体が直面している課題について知恵を出し合いながら解決していくため、会津地方流域水循環協議会が総合調整機能を果たします。



Key Person



紺碧の猪苗代湖復活を目指す

なかむら みらまさ
中村 玄正さん

日本大学名誉教授
日本大学工学部上席研究員
輝く猪苗代湖をつくる県民会議理事長

略歴 郡山市在住。昭和16年生まれ。NPO 法人輝く猪苗代湖をつくる県民会議の理事長として、猪苗代湖の水質日本一復活を目指し、水質改善県民運動や水質研究活動、広報啓発活動、猪苗代湖学活動などに尽力されている。



団体の活動を長く続けていくためのコツは？

「健全な自然環境があって始めて人類をはじめとするすべての生物の健全な日常がある！」というのが、私の思考の原点です。長く続けて行くためには「創立時の理念の継承」と「初志貫徹」が重要です。ただし、年が経るにつれて、理念の実践より組織運営に力点が置かれる場合があるので、このような時には、思い切った組織の脱皮が必要で、具体的には、5年に一度は見直し等が必要と思います。

他団体や関係機関と協力していくために必要なことは？

理想像（理想的な形）を頭に描いて、これをご理解いただき、実践行動で示すことが必要ですね。ただし、事前に試行を繰り返して、行動の形を作っておくのが重要。また、熱い気持ちや共感、感動等は必要で、形だけの関係ではなく、中身のある行動が大事と考えます。

最も苦労していることは何ですか？

猪苗代湖の水質保全に取り組むにあたり、関係部局が多岐にわたり、総合化の方向性を出すのが難しいです。猪苗代湖は大きな生きた象のようなもの。尻尾もあれば、耳もあり、眼もあり、足もあり、胴体もあります。全体を健全に見渡して、健全な状態に生かしていくためにはどうすると良いのか、多くの方々のご理解とご協力を得て、実践しているつもりです。

今後の活動の抱負をお聞かせください。

具体的な結果が見えたり、心から相互に理解できたり、笑顔が見られた時に、達成感や充足感、満足感を感じることが出来ます。今後の抱負としては、猪苗代湖の大腸菌群問題が解決し、真に「健全な自然環境（大気・土壌・水・生態系等）となること」を目指していきます。これは、「心身ともに健全なふるさとづくり」でもあります。

具体的な取組

会津地方流域水循環協議会が、様々な主体の連携や情報共有を図りながら、水循環に関する取組がより効果的なものとなるよう支援します。

水環境保全活動への参加促進

福島県HP等を活用し、水環境に関する活動紹介や参加者募集、水辺空間や水に関するイベント等の情報を発信します。



福島県 HP による情報発信「水に関するイベント情報」

水環境団体間の連携・交流の推進

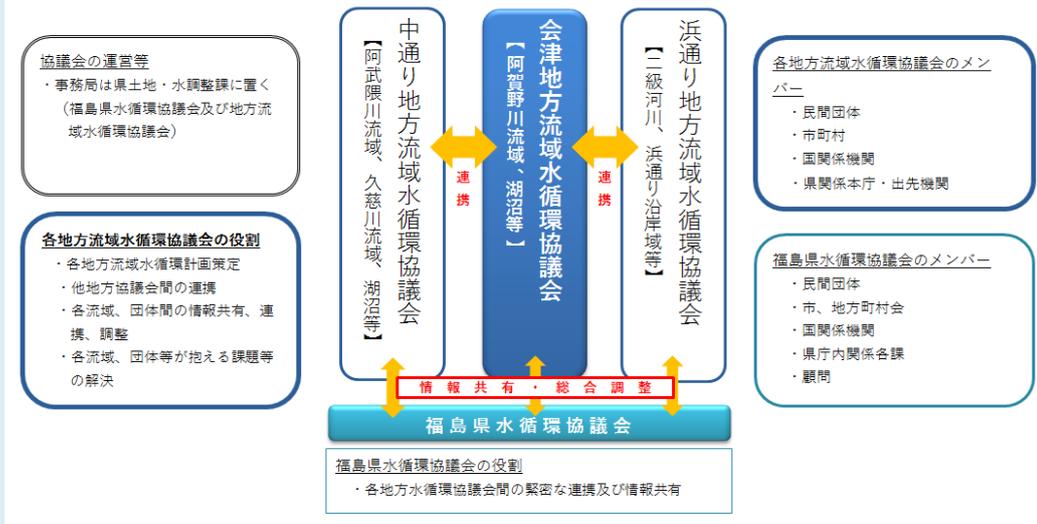
福島県水環境団体交流会の活動を支援するなど、水環境団体間の連携や交流の機会を充実させます。



福島県水環境団体交流会

会津地方流域水循環協議会による各流域が抱える課題解決等の支援

様々な主体が情報を共有し、その活動がより効果的なものとなるよう、会津地方流域水循環協議会が総合調整機能を果たします。



「水循環施策の窓口機能強化」に関わる取組と実施主体の関係

重点的に取り組む施策	実施主体						
	産	学	民		行政		
	事業者	研究機関	市民団体	住民	市町村	国	県
⑤水循環施策の窓口機能強化	水環境保全活動への参加促進	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	水環境団体間の連携・交流の推進	○	○	◎	◎	◎	○
	会津地方流域水循環協議会による各流域が抱える課題解決等の支援	◎	◎	◎	◎	◎	◎

※◎は中心となって取り組む主体、○は関係して取り組む主体